

カフェの空間学

加藤匡毅 (かとう・まさき)・Puddle ❖❖❖❖❖❖❖



写真もきれいで、寸法入りのスケッチに魅かれて手にとりました。隈研吾事務所を経て Puddle (パドル) を設立した著者は設計士さん。2012年に設立して、建物～家具・植物・音響まで設計するそうです。活動範囲はアジア、中東、ヨーロッパ、北アフリカ、北アメリカ各国にひろがるそうです。そんな加藤氏が関わったものを含め、印象に残った個性ある国内外のカフェを 39 件を、オーナーや設計者へのインタビューからわかった事に著者の解釈を加え紹介してくれています。

人の営みやまちの個性をつくるカフェの空間を、専門家でなくても読みやすい内容で、「場所」「人」「時間」という三つをテーマにしてそれぞれの場に相応しい個性を目指す、カフェの旅。



❖目次 1部 場所とのかかわり

環境を借りる / 境界をぼやかす / 外との関係を断つ

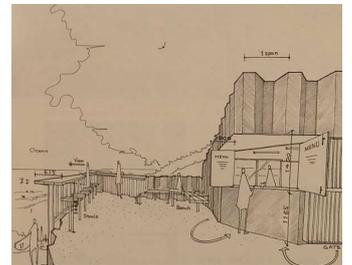
2部 人とかかわり

人がつくるファサード / 人をもてなす距離 / 営みの掛け算

3部 時間とかかわり

古い建物を生かす / プロセスのデザイン

コラム (際を設計する・誰のための空間か・時間を視覚化する)



❖環境を借りるでは、海が広がる丘陵に外壁がさびた鋼矢板のカフェがある。丘の稜線に沿ってつくられたデッキ材3枚のカウンターがはねだし、海をのぞむ。鋼矢板のリズミカルな外壁が丘の土留めと緩やかにつながる。

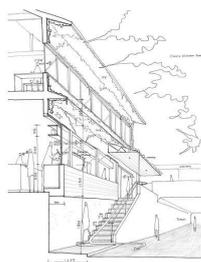
❖境界をぼやかすでは、既存住宅のセットバックとカーポートを利用しながら、まちにひらけた小さな軒下がにぎやかなカフェの表情をつくりだす。大谷石や鎧張り仕上げなど、まわりの緑となじむ素材が選択されている。

❖営みの掛け算では、職住一体や異業種が共存するカフェ、プロセスのデザインでは、工房の作業工程や所作をあえて強調して見せるカフェを紹介。コラムでは Puddle 事務所自身の外へ開けたづくりや、経年変化のことなど。

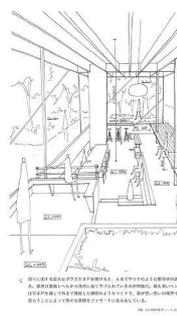
❖著者が設計で意識している 1～3 部のカテゴリーを基に「写真」「スケッチ」を中心に構成。平面・配置図・寸法入り断面パーススケッチには人の視線や風の流れなども書き込まれていて楽しいです。(案内：黒野)



地元住民の生活動線と共存する



通りにつながるサウナ式ベンチ



土着の素材と技術を使う

